

平成 29 年 3 月 30 日

## 東松島復興推進員だより(第 31 号)

～地を往きて走らず～

JICA 地域復興推進員(宮戸担当)

秋山 千恵

東日本大震災から 6 年を迎えた本年 3 月 11 日、東松島市では慰霊式が執り行われ、約 700 名の参加者が犠牲になられた方々を追悼しました。住宅の復旧が進み、目に見えて新しいまちが出来上がっていますが、人々の心から震災のことが忘れられることはありません。

この震災の経験と教訓を発信し、将来へ受け継ぐため、3 月 12 日に仙台国際センターにおいて「仙台防災未来フォーラム 2017－経験を伝える・共有する・継承する－」が行われました。今回は、このフォーラムで JICA が主催したテーマセッションとブースの様子をお伝えします。

### 〈仙台防災未来フォーラム〉

仙台防災未来フォーラムは、国連防災世界会議の仙台開催から 1 周年を機に、防災や復興の取り組みを多くの人と共有するため、2016 年 3 月に初めて開催されました。2 回目となる今年は、「経験を伝える・共有する・継承する」をテーマとし、震災経験の伝承や、人々の多様性と防災といった様々な視点から、「伝える」ことの大切さや今後の課題について理解を深めました。さらに、経験や教訓を世界、そして将来へどのように受け継いでいけばよいか考える機会として、6 つのテーマセッション、12 のミニプレゼンテーション、53 の団体によるブース出展、3 つの連携シンポジウムが開催され、およそ 1,000 人が参加しました。



ブース出展会場の様子

## 〈JICA テーマセッション〉

「もしものそなえ SENDAI と世界のつながり～伝えよう、共有しよう、継承しよう～」と題して、仙台市水道局のトルコでの協力や、ネパール地震への日本の協力の事例を通じて、日本の経験や取り組みがどのように開発途上国に伝えられたか、どのように持続可能な開発目標(SDGs)(※1)の貢献につながっているのかについて報告されました。

来場者 65 名の中には、JICA の復興支援事業の研修で来日したネパールの行政官 10 名もおり、そのうち 3 名がネパールでの取り組みを紹介しました。まず、ネパール復興庁のグラガイン局次長からは、ネパールの復興におけるビジョン「安全で揺れに強い社会の形成」と、ミッション「より良い復興」が共有され、日本の経験がどのように役に立ち、課題解決につながっているのか、参加者がネパールの方から直接話しを聞く貴重な機会となりました。

仙台市建設局下水道経営部の水谷氏からは、「東北と世界とのつながり」と題した発表が行われ、同市が実施している、トルコ国イズミル市との草の根技術協力や中南米諸国を対象とした研修事業への取組みについて紹介されました。また、熊本地震の際にも、同市の経験は活かされており、国内外の復旧・復興につながっていること、またこのような事業に仙台市職員が携わることで、人材育成にもなっていることが伝えられました。水谷氏は「伝える、共有する、継承する」は海外のみならず、組織内や国内に対しても行っていく事が重要であると述べ、参加者が自分に何が出来るかを考えるきっかけになったようでした。

※1 SDGs…環境と開発問題に関する新たな世界目標。2012 年 6 月の国連持続可能な開発会議(リオ+20)で策定の開始が合意され、17 の目標が設定された。



発表の様子



参加者は熱心にネパールの取り組みに耳を傾け、その後多くの質問が挙げられました。

## 〈ブース出展〉

「東北は世界とつながっている」と題し、テーマセッションに合わせて、ネパールでの支援活動で実際に使用した携行品やユニフォームを来場者が実際に触れたり、試着を行ったりできるよう、展示しました。

また、日本の地方が世界とつながり、お互いの復興に関する経験や教訓を共有している例として、スマトラ島沖地震の大津波により、被害を受けたバンダ・アチェ市と東松島市との交流をパネルにて紹介。2015年の第3回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組」(※2)には「より良い復興」(※3)に向けた取り組みを推進することが、防災力を高めることにつながると明記されましたが、このアチェと東松島市の取り組みはそれを体現するものの一つとなっています。来場者からは、「被災地同士が国際協力を通じた交流を行っていることは知らなかった」といった驚きの声や、「自分も東北で何か国際協力につながることをしてみたい」という感想が聞かれました。

※2 仙台防災枠組…2015年3月に仙台で開催された「第3回国連防災世界会議」で採択された、今後15年間の世界の防災指針。4つの優先行動と7つの具体的目標が合意された。

※3 より良い復興…今後予想される災害に備え、持続可能なコミュニティを再生する試みを表す。災害以前にあった問題も復興を通じて解決することが大切であることが示されている。



JICA ブースの様子

JICAでは、これまで開発途上国において防災や復興支援に関わる取り組みを行ってきました。その経験を活かし、東日本大震災でも復興支援を展開し、現在も東松島市で活動を継続しています。その中で、地域住民の方と海外からの JICA 研修員との交流等が行われていますが、それをきっかけとして新たな視点が生まれ、まちづくりへの気づきとなっているように感じられます。

一方、これまで行ってきたように、日本の経験が海外で活かされることが大切です。そのためには、地方自治体が蓄積している経験と教訓を共有することで、開発途上国での防災につながっていくはずだと私たちは考えています。JICA 地域復興推進員は、今後も日本が経験や教訓を発信し、世界と共有するための懸け橋となり、より良い復興、地方活性化を目指して協力を続けていきます。

**【推進員だよりバックナンバー：JICA 東北ホームページ】**

<http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/shinsai/index.html>

以上